

オピニオン

主張

医療機器、日本の技術生かせ

私の次女は先天性の心臓疾患で1991年に亡くなった。闘病中、医療には全くの素人ながら、娘を助きたい一心で人工心臓の開発を始めた。しかし、実用化には膨大な資金がかかるかわかり、断念。同じころ、医療関係者から聞いた話があった。奮起し、心筋梗塞時の心臓の動きを助けるIABP（大動脈内バルーンポンピング）カテーテルの開発に着手し、89年に製品化にこぎつけた。

日本人の命を守る
私が聞いた話というのが、日本ではIABPカテーテルをはじめとした高度医療機器の多くを欧米から輸入に頼っているということ。また、欧米人と体格が違ふ日本人に、輸入した

日本人の命を守る

IABPカテーテルを使用すると、合併症などの弊害が生まれているという事実だ。日本人の命は日本人が守りたい。日本の技術力であれば、それは可能だ。

私はもともと家業のプラスチック加工会社を経営しており、日本や中部地区のモノづくりの卓越した技術を間近で見っていた。IAB

「ポスト自動車」産業創出



東海メディカルプロダクツ社長 筒井 宣政

Pカテーテルの開発、製造にも、そこで得た樹脂加工のノウハウが生きている。こうした経緯があり、7年くらい前から一般産業と医療機器を結びつけることで、両方の業界の発展に貢献できるのではないかと考え始めた。産業の裾野が広い高度医療機器は電機やセラミックスなど多くの業界

に波及する「ポスト自動車」産業になり得る。私は09年10月に多くの人から賛同を得て名古屋商工会議所と共同で「メディカル・デバイス産業研究会」を設立したが、ここで、想いの実現を目指す。

一般産業と融合を

医療機器は中部地区の新たな産業になるだろう。医療にも技術にも疎かった私のような人でも、世界に先駆ける製品開発ができる可能性がある。私の活動が、現在の日本の医療業界に風穴を開けることにつながることを期待している。

ま関同、64年(昭39)大経卒、化学専攻、72年東海高分子工業に入社。81年東海メディカルプロダクツ社を設立、社長を兼務。愛知出身、69歳。

医療業界と一般産業を融合させれば、医療機器の進歩に加え、中部地区の一般企業の可能性は大きく広がる。そのために国や県、産学官を巻き込んだムーブメントにしていきたい。一般企業にとっても、事業分野が広がるなど可能性が広がる。この動きが広がれば、
（愛知県春日井市田楽町 更屋敷1485）